

ごあいさつ

皆様には、平素より東和銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

当行では、「靴底を減らす活動」「雨でも傘をさし続ける銀行」「謙虚さのDNAを忘れない銀行」の3つのモットーをもとに、地域金融機関として地域の皆様とともに持続的に発展することができるよう従業員一同尽力していく所存です。皆様におかれましては、当行への変わらぬご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、令和2年度中間期も、当行に対するご理解を一層深めていただくために、ディスクロージャー誌「東和銀行レポート 令和2年9月期」を作成いたしました。できるだけ詳しく紹介させていただいておりますので、ご参考にしていただければ幸いです。

令和2年度中間期におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるショックを受け、実質GDP成長率の戦後最大の落ち込みを経験するなど、大変厳しいものとなりました。振り返ると、令和2年2月から始まった感染拡大は、インバウンド需要を消失させるとともに、中国からの供給停滞からサプライチェーンの機能を低下させ供給制約を起し、更に国内の製造業の停滞と海外のロックダウンの動きから、輸出の大幅な減少をもたらしました。また、コロナ対策としての休業要請や移動の自粛要請を受け、個人消費全体が大きく落ち込みました。その後、緊急事態宣言解除後の5月を底に、個人消費は自動車や家電など耐久消費材を中心に持ち直し、生産面においては自動車生産の持ち直しが顕著となる一方で、宿泊や飲食業などは、まだまだ厳しい状況が続いています。また、金融を取り巻く環境は、新型コロナウイルスへの対策のために金融緩和が継続されるなど、極めて緩和的な状況が続いています。

このような状況のもと当行は、経営強化計画「プランフェニックスV」に基づき、お客様の「本業支援」「経営改善・事業再生支援」「資産形成支援」を柱とする「TOWAお客様応援活動」の実践により、お客様の企業価値の向上と当行の収益力の向上を図る「共通価値の創造」に取り組むことで、お客様と当行の双方で持続可能性のある発展を目指してまいりました。これは、SDGs (Sustainable Development Goals) そのものであると考えており、「お客様と当行のSDGs (持続可能な発展目標) の推進」(*)をキーワードに、お客様応援活動の強化・深化に取り組んでまいりました。

(※) 当行は、お客様と当行の持続的な発展を目指す観点から「持続可能な発展目標」としております。

また、新型コロナウイルス感染拡大により、直接的または間接的に影響を受けているお客様の業況や資金繰りについて、きめ細かく実態把握を行い、適切かつ迅速な金融支援に取り組んでまいりました。

お客様の本業支援にあたっては、ESG (Environment : 環境, Social : 社会, Governance : ガバナンス) に着眼した財務面と本業面の支援に取り組んでまいりました。令和2年6月に環境省「令和2年度地域ESG金融促進事業」の支援先機関としての認定や、令和2年8月に環境省「地域ESG融資促進利子補給事業」に係る指定金融機関の認定を、ともに令和元年度に引き続き受けるなど、ESG融資の普及や促進に努めています。また、他行に先駆けて取り組んできた「ものづくり補助金」の申請支援は、リレーションシップバンキング推進部お客様応援室と外部コーディネーターが連携して、申請書の作成支援に取り組んだ結果、5年間の採択件数は、群馬県・埼玉県金融機関を上回るトップの採択数となっております。この他、関東経済産業局と連携して専門知識や経験をもつ大手企業OBと専門人材の不足に悩むお客様の橋渡しをする「新現役交流会」を、7回目

となる令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ウェブ上での開催としました。

経営改善支援・事業再生支援では、経営改善計画の策定支援や経営指導などコンサルティング機能の発揮に努め、外部専門機関に知見やサポート機能の活用を積極的に行うとともに、取引先企業の経営状況に応じて、より適切な事業性の評価に基づいた、実効性のある抜本的な事業再生支援にも取り組んでまいりました。

資産形成支援では、お客様の金融資産を守り育てるためのアドバイザー型営業の実践を全店で開始し、ローリスク・ローリターンのコア・ファンドを中心にお客様の金融資産の増加を図り「長期」「分散」「積立」を基本とした、少額から投資できる積立投信による資産形成の支援に注力してまいりました。また、「東和SBIマネープラザ」では、国内外の株式、仕組債などを取り揃えており、お客様の多様なニーズにお応えしました。

このような、積極的な取り組みにより、令和2年9月末の預金残高は前年同期比962億円増加の2兆978億円、貸出金は同492億円増加の1兆4,944億円となりました。また、令和2年度中間期の収益状況につきましては、コア業務純益24億円、経常利益26億円、中間純利益16億円となりました。

当行は、新型コロナウイルスの感染拡大により、経営や資金繰りなどに影響を受けている地域のお客様の支援に全力で取り組んでまいりました。しかし、今後の懸念は、借入金が過大となったお客様にとって、売上が回復しないまま、借入金の返済据え置き期間が到来し返済が始まれば、事業継続に窮する可能性があるということです。そこで、令和2年10月より、ウィズコロナ・ポストコロナに向けた新たな取り組みである「真の資金繰り支援」に、総力をあげて注力しております。「真の資金繰り支援」は、お客様に寄り添い、一緒になって年間の資金繰り表を作成し、お客様が資金繰りを気にせず本業に専念できる環境づくりをお手伝いするもので、本業支援と併せて、お客様の企業価値の向上を目指すものです。そして、この資金繰り支援を行う手段として、返済負担を軽減できる資本性資金等を提供するため、SBIホールディングス株式会社と業務提携を強化し、令和2年12月に「東和SBIお客様応援ファンド」を組成いたしました。本年より積極的に活用してまいります。

今後も、この「真の資金繰り支援」に全職員が一丸となって取り組み、地域経済の持続的発展に寄与することで、当行自身も持続的な発展を目指してまいりますので、変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年1月



代表取締役会長

吉永 國光



代表取締役頭取

江原 洋